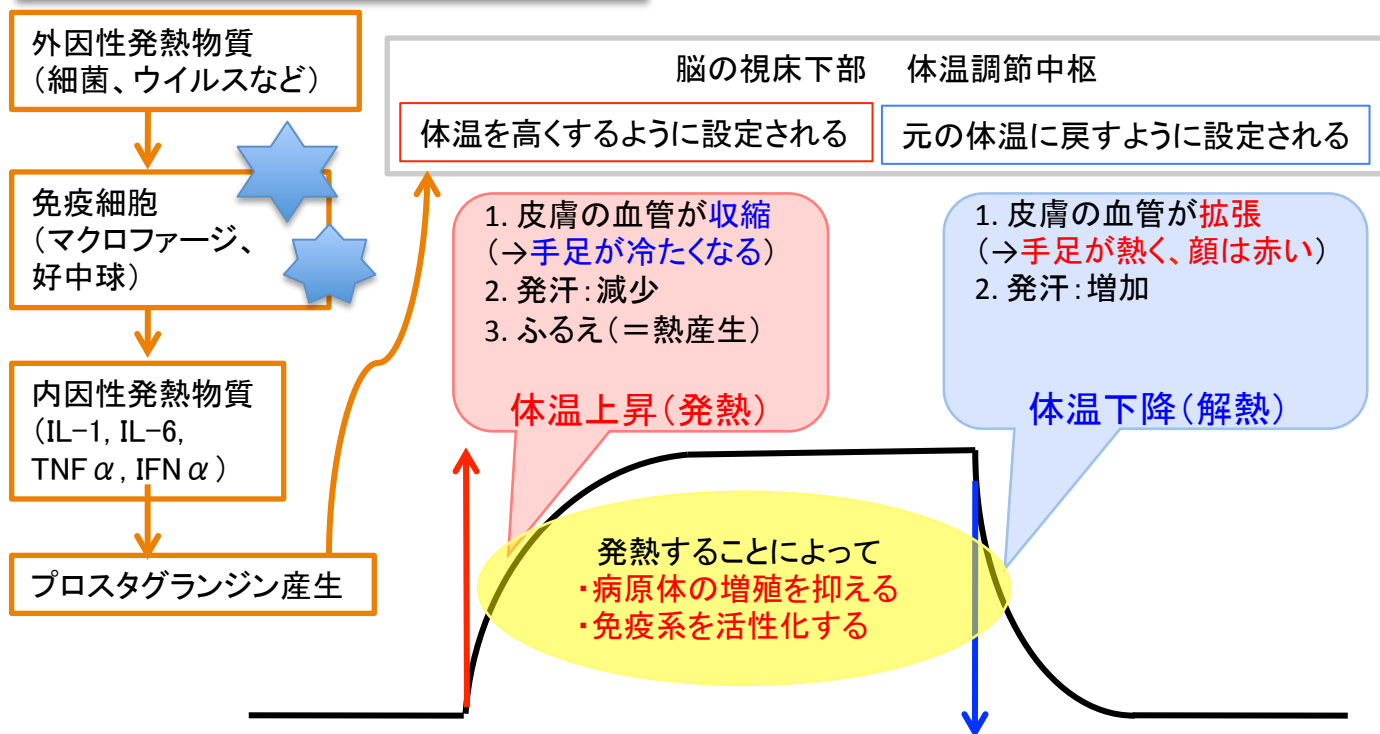


体温調節-発熱と解熱のしくみ



発熱時の対処

熱が上がり寒気がある時、手足が冷たい時

→ 温める(ふとんをかけたり、部屋を暖かくする)。

ふるえも止まり、顔も真っ赤、手足も熱くなってきたら

→ 薄着にして、からだから熱が逃げやすくする。嫌がらなければ、首の横、脇の下を冷やしてもよい。

積極的に冷やして熱を下げようとしなくても大丈夫です

解熱剤の使い方

6か月未満ではなるべく使用しない

発熱は病原体と戦うための防御手段のひとつなので、熱がでたら解熱剤を使うというわけではありません。使用目的は子どもの不快感を軽減することで、それ以外の目的はありません。

□ 熱が上がりきって寒気もなく、眠れない時、痛みが強い時
→ 一時的に解熱剤を使っても良いでしょう

□ 熱性けいれんをおこしやすい子どもには、まず抗けいれん薬を使ったうえで、解熱剤を使います。